

## アクションプランの実施状況 (三井住友アセットマネジメント)

2017年5月に「FD2.0」(FDの新しいステージ)として設定した新しいアクションプラン(昨年6月に35項目に更新)について、金融庁の「顧客本位の業務運営に関する原則」の項目に沿って、最新の実施状況を以下のページに記載しております。なお、実施状況の中で赤字で記載している事項につきましては、詳細をご覧頂けるリンクを設定しておりますので、あわせてご参照ください。

- ◆ 原則2【お客さまの最善の利益の追求】に関する17項目：2～5ページ
- ◆ 原則3【利益相反の適切な管理】に関する4項目：6ページ
- ◆ 原則4【手数料等の明確化】に関する2項目：7ページ
- ◆ 原則5【重要な情報の分かりやすい提供】に関する3項目：8ページ
- ◆ 原則6【お客さまにふさわしいサービスの提供】に関する6項目：9ページ
- ◆ 原則7【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】に関する3項目：10ページ
- ※ 原則1【顧客本位の業務運営に関する方針の策定・公表等】は、本件の取組状況のご報告に該当するため、ご説明を省略しています。

上記のアクションプランの取組みを通じて、お客さま本位の業務運営を一層推進するとともに、成果指標として設定しております以下のKPIの更なる向上に取り組んで参ります。

- ① 運用成績に関するKPI  
『モーニングスター総合レーティング4ツ星以上のファンド数』(純資産10億円以上)
- ② 長期運用商品に関するKPI  
『設定来10年以上のファンド数(公募株式投信)』(純資産100億円以上)
- ③ お客さまのQOLへの貢献に関するKPI  
『ライフステージ対応型ファンドの増加額』

各KPIのこれまでの実績につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

原則 2【お客さまの最善の利益の追求】に関する 17 項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019 年 3 月末)
① 超長期の資産形成にふさわしい優れたトレーサビリティを備えた運用の仕組みおよびシステムを整備し、品質管理を徹底します	運用	トレーディングおよびポートフォリオ管理で利用している社外データを、運用の振り返りを容易にするデータベースとして格納するシステム化の要件定義が完了しました。
	実施中	
② 独自のスマートデータベースを構築し、調査・運用業務の飛躍的なレベルアップを図ります	運用	効率的なデータ収集を行うため、運用にとって有用な情報（商品、技術、サービス等に関するテキスト情報）を自動的に取得する仕組みを構築しました。
	実施中	
③ 自社運用に外部提携先も含めたアジアナンバーワン運用を具体化します	運用	債券運用において、ボンドコネクトのスキームを活用し、中国人民元建ての国債ファンドおよび社債を含む債券ファンドの 2 ファンドを設定しました。また、アジア株運用において、銘柄選択の強みをより一層活かした運用プロセスの見直しを実施しました。
	実施中	
④ リサーチ・運用手法等、日本株運用の強みをアジア株運用へ活用します	運用	アジア株運用の中心拠点である香港現法内に設置した <a href="#">アジアリサーチセンター</a> のセンター長として、本社の株式アナリストのヘッド経験者を派遣し、産業分析においてアジア株運用と日本株運用との連携を強めるとともに、ESG や議決権行使などの知見を活用した体制整備を行っています。
	実施中	
⑤ テーマリサーチなど、長期投資のための調査分析のアウトプットを質・量ともに拡充します	運用	EV（電気自動車）や長寿化社会など、注目すべき技術や構造変化を分析したテーマリサーチレポートを中心に、長期投資のための調査分析レポートを 2018 年度 149 本作成しました。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

⑥ 企業価値向上を促すエンゲージメント活動を推進し、エンゲージメント運用を確立させます	運用	成長戦略、資本生産性、ESG など長期的な企業価値向上の視点から、企業との対話を2018年度 246 件実施しました。経営層との対話回数の増加、効果的なエンゲージメントプロセスの設定を通じて企業行動にも変化が生じ、株式市場からの評価が高まる事例も得られています。 この他、 <a href="#">機関投資家協働対話フォーラム</a> を通じた集团的エンゲージメント活動も積極的に行っています。
	実施中	
⑦ 長期視点の企業分析の根幹として ESG 評価を位置づけ、ESG 運用に積極的に取り組みます	運用	社内独自の ESG 評価を活用した <a href="#">国内株式 ESG ファンド</a> において、ESG 評価方法の検証・見直しを行い、従来の方法の有効性を確認した他、ポートフォリオ構築方法の改善およびスチュワードシップ活動のアウトプットを投資判断に活用する仕組みを拡充しました。また、REIT 運用においても、社内アナリストによる ESG スコアと外部機関による ESG スコアから構成された独自の評価システムを確立しました。 この他、国内社債の銘柄選択プロセスにおいて、ESG 評価を追加しました。
	実施中	
⑧ 社会のサステナビリティに貢献する、インフラ投資に積極的に取り組みます	運用	大手公的年金より運用受託機関に選定されたグローバル・インフラストラクチャーの運用をはじめ、インフラ投資のノウハウを持つ複数の海外有力先と提携し、優れたインフラ・ファンドを年金・機関投資家のお客さまへご提案しています。
	実施中	
⑨ 「預貯金より満足度の高い」商品のベースとなる超長期運用を具体化し、商品化に取組みます	運用	長期的に安定したパフォーマンスを目指し、相場下落時のリスクコントロールを重視するリスク抑制型プロダクトを複数開発し、運用残高が着実に増加しました。
	実施中	
⑩ スマートデータを活用し、低金利環境下の新たなソリューションとなる次世代型クオンツ運用を開発します	運用	<a href="#">金融スマートデータ研究センター</a> との共同研究として、金融市場の転換点の予兆に関する研究を行っている他、オルタナティブデータの活用に関する研究を進めています。また、共同研究成果として、 <a href="#">取引コストモデルに関する論文</a> を国際学会（WEHIA）で発表しました。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

⑪ 自社資金を活用し、新規ファンドの開発を積極的に行います	運用	中国人民元建ての国債および社債等に投資するファンドを自社資金で立ち上げました。また、パイロットファンドとして運用していた中小型株集中投資型ファンドの販売が実現し、異なるスタイルの中小型株ファンドやマルチアセット運用につきましても、お客さまから高い関心をいただいております。
	実施中	
⑫ 最先端の取引執行技術を取り入れ、トレーディング機能を高度化し、取引コストを縮減します	運用	外国債券の運用において米国で主流のポートフォリオトレーディングを導入し、ポートフォリオの構築にかかる時間・コストを短縮しました。また、国内株式においてもブローカーとの取引方法を工夫し、マーケットインパクトの削減に努めました。
	実施中	
⑬ QOL (Quality of Life) ※、人生100年時代に向けた「預貯金より満足度の高い」商品の開発、マーケティングを行います ※人生を豊かにする生活や仕事の質	商品開発	長寿命化に必要となる資産寿命を伸ばすことを考慮した、取崩し型の公募投信「 <a href="#">ライフ・ジャーニー</a> 」等の商品を設定し、取扱販売会社を拡大しました。 また、ネット直販向けに、ボトムアップ運用力を活かした日本株投信「 <a href="#">アクティブ元年・日本株ファンド</a> 」を2月に設定しました。「いい会社を選ぶアクティブ運用による資産形成手段の提供を通じて、アクティブな人生をサポートしたい」というメッセージを商品名に込め、展開しています。 この他、「 <a href="#">イノベーション・インデックス・シリーズ</a> 」と銘打ち、各種成長領域に焦点を当てた一連のファンドを設定し、資産形成層を中心に資産形成を促す商品を提供しました。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

⑭ アジア地域ファンドパスポート向け商品開発を具体化し、進めてまいります	商品開発	引き続き、当局など関係機関との意見交換、海外市場調査等を通じ、問題点の整理や実務的なフローについて検討を継続しました。
	実施中	
⑮ 日興グローバルラップ社と協働し、先端分野・新分野の商品開発を積極的に行ってまいります	商品開発	日興グローバルラップと協働し、低リスクマルチアセット型商品を開発し、機関投資家向け私募投信として設定しました。また、ニュース等、経済や金融市場の動向とは異なる情報を投資判断に取り込んだファンドも設定しました。 今後も、同社と共同で、様々な資産に亘って、運用手法の研究・開発と新分野の商品開発に取り組んでまいります。
	実施中	
⑯ デジタル・ディスラプションに対応し、スマートデータ活用や全社的な生産性向上に資するシステム開発を推進してまいります	経営管理	運用業務の高度化を目指し、スマートデータを活用した経済市場動向等の分析結果を、リアルタイムで運用担当者に配信するシステムを開発しました。 通常業務においても、WEB 会議・研修システムを利用した全社コンプライアンス研修、文書管理システムによるレポート・規程類の管理、など電子化によるペーパーレスと業務効率化を進めました。
	実施中	
⑰ 運用業務の高度化を目指し、ビッグデータ分析の運用技術への応用など最先端分野の産学共同研究に引き続き取り組みます	経営管理	<b>ビッグデータ分析に関する論文</b> を自然言語処理の国際学会（NAACL）で発表しました。 同論文で発表した自然言語処理技術を進展させ、運用業務への応用に向けた開発を行っています。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
(三井住友アセットマネジメント)

原則 3【利益相反の適切な管理】に関する 4 項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019 年 3 月末)
① 国内株式の議決権行使結果の個別開示および日本版スチュワードシップ・コードの遂行状況に対する自己評価を継続します	運用	国内株式投資先の議決権行使結果について、 <a href="#">全社全議案の賛否等</a> を四半期毎に取り纏め、2ヵ月以内に公表しています。また、2017 年度の <a href="#">スチュワードシップ活動の自己評価</a> について、2018 年 8 月末に公表しました。
	実施中	
② 日々のお客さまサービスについてのプロセス検証・管理を徹底します	お客さまサービス	法令・協会ルール等違反に繋がりうる事案だけではなく、お客さま本位として改善余地のある事案がないか、営業担当以外の部署による、日々の営業活動の検証・管理を実施しています。
	実施中	
③ 利益相反関係等、FD 全般をチェックする FD 第三者委員会を四半期毎に開催し、外部委員の提言も踏まえ、FD2.0 を実践してまいります	経営管理	FD 第三者委員会を四半期毎に開催し、外部有識者からの提言を業務改善に繋げています。2018 年度は株主会社に対する議決権行使の内容のチェック、および利益相反管理規程の内容等への提言を頂き、順次反映しております。 なお、新会社においては、社外取締役がメンバーとなる「責任投資委員会」でスチュワードシップ活動や利益相反管理状況の監督を行い、FD 第三者委員会は「FD アドバイザリー会議」と改称し外部有識者の提言も得てフィデューシャリー・デューティー全般のレベルアップを図ってまいります。
	実施中	
④ 社外役員の独立性を確保し、更に CEO、役員を選任基準、選任プロセスを明確化します	経営管理	合併後の新会社において、CEO・役員を選任基準・選任プロセスを策定する旨、統合準備委員会で確認済みです。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

原則4【手数料等の明確化】に関する2項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019年3月末)
① 「運用報酬に関する基本方針」に基づき、お客さまにご納得いただける合理的な報酬水準を設定します	商品開発	信託報酬の一部が運用実績に連動する、 <u>成功報酬体系を導入した公募投信</u> を2018年11月に設定しました。引き続き、お客さまにとって納得感のある報酬体系の実現を目指してまいります。
	実施中	
② お客さまのご理解のため、信託報酬等の手数料差引後の収益率イメージの明示を順次、進めてまいります	お客さまサービス	販売用資料等において、お客さまに収益率のイメージをお示しする際に、信託報酬等を控除してお示ししています。
	実施中	

アクションプランの実施状況  
(三井住友アセットマネジメント)

原則 5【重要な情報の分かりやすい提供】に関する 3 項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019 年 3 月末)
① デジタルコンテンツや web セミナー等のお客さまへのデジタルサポートを拡充します	お客さまサービス  実施中	オリジナルコンテンツで <a href="#">インド関連商品の動画</a> を制作するなど、ファンドの運用内容や商品特性のイメージがお客さまに伝わりやすい動画作りや、新しいデジタルツールを活用した分かりやすいセミナーを実施しています。また、AR（拡張現実）を活用したチラシやデジタルブックのご提供なども行い、お客さまの利便性に資するデジタルサービスを拡充しています。
② 資産形成初心者の皆さまのご理解のため、QOL セミナーや SNS を活用した啓蒙活動を広く展開します	お客さまサービス  実施中	資産形成初心者の方や金融・経済にご関心のない方にも資産形成に興味を持って頂くため、 <a href="#">「QOL セミナー」</a> を 12 販売会社において累計 266 回開催しました。QOL セミナーは「人生をもっと楽しく」をテーマに、お客さまに人生で叶えたい夢や理想の過ごし方を見つけて頂き、それを叶える手段として資産形成をご紹介しますセミナーです。同セミナーでは VR 映像も活用してお客さまに楽しい人生の過ごし方をイメージして頂き、前向きに資産形成にチャレンジしてみようという気持ちを後押しします。 また、資産形成初心者の皆さま向けに、アニメーションを活用したインタラクティブ動画 <a href="#">「日本おかねばなし」</a> を制作。Facebook による「マーケット展望」の月次配信も行っています。
③ インフォグラフィックを活用し、ファミリーファンドやファンド・オブ・ファンズなど、投資信託を運用する形態についてわかりやすく説明します	お客さまサービス  実施済	インフォグラフィックを活用した、第 1 弾の手数料の仕組み、第 2 弾の分配金の仕組みに続き、投資信託を運用する形態の違いなどを見やすく、わかりやすく解説した Web コンテンツ <a href="#">「インフォグラフィックでわかる！投資信託の 3 つのカチ（基本編）（アラカルト編）」</a> を、2018 年 10 月に公開しました。（基本編）では、投資信託のカチ（直接投資方式、ファミリーファンド方式、ファンド・オブ・ファンズ方式）を暮らしのカチにたとえて、各方式の特徴や違いを解説しています。（アラカルト編）では、各方式でかかる手数料の違いを解説するとともに、Q&A を掲載しています。 インフォグラフィックの各コンテンツの概要をページの冒頭で知ることができ、目的のページに素早くアクセスできるよう、専用のインデックスページを開設しました。

アクションプランの実施状況  
(三井住友アセットマネジメント)

原則 6【お客さまにふさわしいサービスの提供】に関する 6 項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019 年 3 月末)
① 「商品戦略に関する基本方針」に基づき、お客さまニーズを的確に捉えた商品開発プロセスの高度化を行います	商品開発  実施中	商品開発の担当者が直接お客さまの声を聞き、営業や海外拠点を交えた新商品のアイデア創出に努めています。資産寿命を伸ばす取り崩し型商品の開発においても、QOL セミナー等で頂いたお客さまや販売会社の声を起点としました。また、当社海外拠点による現地ならではの視点を取り入れた海外投資プロダクトを新たに商品化する予定です。
② お客さまのポートフォリオ構築や収益・リスク管理のお手伝いが出来る様々なサービス提供を強化します	お客さまサービス  実施中	主に企業年金のお客さまを対象に、お客さまニーズとポートフォリオの分析結果を踏まえて、低流動性資産等も含めたポートフォリオ構築アイデアの提供や、お客さまニーズに沿ったプロダクトミックスのご提案を実施しています。
③ インターネット直販の商品ラインナップを拡充します	お客さまサービス  実施中	直販専用商品として、「アクティブ元年・日本株ファンド」を新規に設定し、2019 年 2 月から <a href="#">ネット直販の商品ラインナップ</a> に加えています (合計 8 本)。直販のお客さまに役立つ情報発信も積極的に行っています。
④ DC、iDeCo、つみたて NISA 等を通じた、長期資産形成向け商品を拡充します	お客さまサービス  実施中	新たに「資産最適化ファンド(5 本)」「日本株 ESG ファンド」を加え、DC、iDeCo、つみたて NISA 向け商品として、合計 61 ファンドをラインナップし、長期資産形成に資するライフステージ対応型ファンドのご提供増加 (KPI③) に努めています。
⑤ お客さまの声を直接うかがい、継続的なサービス改善に努めます	お客さまサービス  実施中	お客さま専用フリーダイヤルやメール照会サービスに寄せられたお客さまの声を、日々全社で共有しています。特に、ご不満や苦情に関しては、経営会議に報告し、継続的なサービス改善や業務改善に繋げています。
⑥ ブラックロック社のアラディンを活用した、お客さまへのよりわかりやすい情報提供とニーズに即したご提案を可能とするシステム開発を行います	経営管理  実施中	アラディンの情報を使用した資料をお客さまにご提供しています。また、アラディンの機能向上を受けて、更なる利活用を進めています。

アクションプランの実施状況  
 (三井住友アセットマネジメント)

原則7【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】に関する3項目

フィデューシャリー・アクションプラン	分野/ 実施時期	実施状況 (2019年3月末)
① ダイバーシティ&インクルージョンを基軸とした抜本的な人事制度改革に向け、詳細な検討を行います	経営管理	お客さまへのサービス向上に繋がる、多様な働き方や多様な人材活用を可能とする新会社の人事制度を創設しました。また、社員の健康管理と働き方改革への意識向上を促す施策を実施しました。
	実施済	
② 社員の創造性を育み、生産性を高めるオフィスづくりを開始します	経営管理	コンセントレーションブースの設置、フリーアドレスの導入およびサテライトオフィスの試行等、社員の創造性を育み柔軟に業務に取り組める環境づくりに取り組んでいます。
	実施中	
③ 社員一人一人が自主的にFDを実践できる、最高水準の内部統制と生産性向上を目指し、業務および業務工程の見直しを行います	経営管理	お客さま第一の精神を踏まえた新会社の経営理念(目指す姿)「Quality of Lifeに貢献する最高の資産運用会社へ。」を策定するとともに、これを実現する行動規範「誠実、スピード、挑戦、情熱、チームワーク」を社員アンケートの結果も踏まえて策定しました。同時にフィデューシャリー・デューティー宣言も見直し、内容の充実を図りました。 また、 <b>利益相反管理方針</b> ・管理態勢を改めて整備し、お客さまの利益を不当に害することを防止する旨を社員に徹底し、内部統制向上に努めるとともに、文書管理システムによるレポート・規程類の管理、など電子化による業務効率化を着実に進めています。
	実施中	